



[講演]

立教コミュニティ翻訳通訳 (RiCoLaS) と短期日本語 教育プログラム

異文化コミュニケーション学部教授
武田 珂代子 氏

○武田 ご紹介ありがとうございます。丸山先生、きょうはお招きいただきまして、ありがとうございます。普段からやりとりをさせていただいていますが、短プロについて、成り立ちとか、あまり詳細には知らなかったので、きょうは大変勉強になりました。あと、文化社会講義ご担当の先生方のお話を聞いて、非常に刺激を受けて学ぶことができました。ありがとうございます。【スライド④-1】

きょうのお話の概要です。TIと書いてありますが、TはTranslation、翻訳です。IはInterpreting、通訳です。まず、立教の中にある通訳翻訳プログラムについてちょっとだけ説明させていただいて、その関連で私たちがやっているRiCoLaS、何回かこれまでも出てきましたけれども、RiCoLaSというサービスラーニングのプログラムの背景と、私たちが大事にしているガイドラインについてお話しさせていただきます。3番目のトピックが一番大きな柱になるのですが、短プロとのコラボレーションの事例についてお話しさせていただきます。それから、このシンポジウムのテーマでもある立教の国際化に短プロとの連携がどう貢献できているのかについて、お話しさせていただきたいと思います。【スライド④-2】

まず、立教大学の中には、ご存じない方もいらっしゃるかもしれませんが、実は通訳者、翻訳者を養成するプログラムがありまして、異文化コミュニケーション学部のほうでは、通訳者・翻訳者養成プログラム、大学院異文化コミュニケーション研究科のほうでは、会議通訳者養成プログラム、翻訳専門職養成プログラムというのをやっています。ISOのような国際規格に沿った、総合的で本格的なプログラムを実施しています。【スライド④-3】

大学院では研究もさかんにやっています、修士、博士の学生が、通訳翻訳に関する論文を書いています。今、通訳翻訳に関する博士論文を書いている学生は5名います。【スライド④-4】詳しくは、このウェブサイトを見ていただきますと、どういう教員がいて、どういう科目をやっている、これまでどういう博士論文が提出されたのかなどの情報があります。ご興味のある方は、どうぞごらんになってください。【スライド④-5】

ここに少し難しそうなことを書いていますが、通訳翻訳教育というのは、教室の中で、通訳や翻訳の練習をしたりというだけでは足りないですね。やはり実際のプロジェクトに取り組んで、実際のクライアントやユーザーとインタラクションをしながら学んでいくことがとても大事だと言われています。通訳者・翻訳者の養成というのは、将来的に、通訳者あるいは翻訳者のコミュニティの成員になっていく社会化のプロセスだということが言われているんですね。そこにおいては、ただ単に翻訳ができる、通訳ができるという、そういう能力だけではなくて、例えばクライアントと効果的にコミュニケーションができるとか、あるいは、クライアントに対して、自分がやった仕事について説明する能力があるというふうな、サービス提供能力も養っていく必要があるわけです。【スライド④-6】

ということで、体験的な学習というのが必要になるわけですが、その1つのやり方がサービスラーニングと言われているものです。サービスラーニングというのは、ご存じの方もたくさんいらっしゃると思いますが、教室で習得した知識やスキルを、コミュニティの課題に取り組む活動に活用していく。その中で、教室で学んだものを、現実社会で実践できるものに転換していく。そしてその中で、自分が将来的にどういうキャリアを形成していくのかという、そうした計画の支援にもつながる。また、コミュニティへの貢献を通して、自分たちの社会的な役割、あるいは市民としての責任を認識していくという効果があると言われています。【スライド④-7】

でも、サービスラーニングというと、よくサービス、つまり奉仕のほうに注目が行きがちだと思うんですね。でも、サービスラーニングですから、ラーニング、教育活動であるということを考えれば、そこには必ず振り返りの作業が必要となります。学生にサービスを提供させて、やりっ放しではなくて、それについて振り返らせる。教員も振り返って、そして評価をする。フィードバックを与えということが大事です。また、サービスを提供する側と、サービスを受ける側の間

の互恵性がなければ、長続きするものではないと考えます。この点が大事だと思います。【スライド④-8】

特に、翻訳通訳教育において、サービ斯拉ーニングの難しいところというのは、よく誤解される方がいて、外国語が多少できれば誰だって通訳ができる、翻訳ができるというふうな誤った考え方をしている方が世の中にはとても多いわけですね。そういうことを助長させるようなサービ斯拉ーニングであっては駄目だ。つまり、通訳者・翻訳者というのは専門職であって、通訳者・翻訳者になるためには専門教育が必要であるということを私たちはずっと言い続けているわけですが、こうしたことを理解していただく方たちと組んでいきたいと考えています。例えば、医療通訳とか、法廷通訳、いわゆるコミュニティ通訳と言われるものがありますが、日本の多言語・多文化社会を支えるための、非常に大きく重要な役割を果たしているにもかかわらず、そこで働いている通訳者の人たちは、ほとんどボランティアという扱いをされている。そういうような状況を助長させないようなやり方をしなければいけない。これが私たちの課題です。

きちんとした形で通訳翻訳教育におけるサービ斯拉ーニングを実施していくためには、やはりガイドラインが必要です。そのガイドラインに沿って、業務が実際のカリキュラムと関連しているかとか、学生の能力に見合った業務なのかなどを見極めなければなりません。背伸びさせるような仕事は引き受けない、学生に合った適切な業務を選ばないといけません。それから、学習ですから、ラーニングですから、監督していかないといけない、管理もしていかないといけない。また、先ほど言いましたように、振り返りと評価が必要です。こういったことをまじめにやっていくためには、クライアントさん、ユーザーさんの理解と協力がとても大事になるわけです。

実際、このガイドラインに従って、クライアントさんには、「業務について必ずブリーフィングしてください」「必ず事前に資料を出してください」「必ずフィードバックをください」というふうに、非常に面倒くさいことを頼んでいるわけです。実際の商業的なベースでは、そこまでクライアントさんに強いることは難しいと思うんですね。だけれど、その面倒くさいことを、クライアントさん、ユーザーさんにやってもらうためには、私たちのプログラムの教育的趣旨をきちんと理解していただき、協力する姿勢をもっていただく必要があるわけです。【スライド④-9】

具体的にどういうことをやっているかといいますと、立教大学コミュニティ翻訳通訳、Rikkyo Community Language Service を略して RiCoLaS という、ちょっとかわいらしい名前のプログラムを 2016 年 4 月にスタートさせました。大変ありがたいことに大学の GP の援助をいただきまして、2 年間やっているわけですが、この援助が今年度で終わります。来年度からは、異文化コミュニケーション学部で運営していくことが学部内で認められまして、RiCoLaS を続けていけるということでホッとしているところです。【スライド④-10】

ガイドラインですが、先ほど言いましたように、私たちは RiCoLaS を教育活動の一環としてやっているということですね。それから、業務の受け入れ基準というのも、きちんとガイドラインとして設けています。例えば、先週でしたっけ、来週、あるセミナーに通訳者を派遣してくれというリクエストが来たんですね。お声がけしてくださるのは大変ありがたいのですが、1 週間の間に学生を選んでトレーニングをして云々というのはとてもできないんですね。とても残念なんです。そういうときはお断りせざるを得ないんです。ですから、「クライアントの皆様へ」ということで、サービスラーニングへの理解を求めるような基準を幾つかウェブサイトにあげています。学生に対しては、いくら教育の場だと言っても甘えた気持ちではやってほしくない。プロらしい心構えと振る舞いを守ってほしいということで、プロとしての倫理規定の話、プロジェクトの開始時に毎回やります。倫理規定を守るように厳しく指導しているつもりです。【スライド④-11】

あとはプロジェクトのフローとか、振り返りのフローなどがガイドラインに入っています。先ほども言いましたように、クライアントさん、ユーザーさんへのお願いというのは、教育に対する理解とか、フィードバックを必ずください、質問があったら対応してください、というようなことです。皆さんお忙しいので、すぐに対応していただくのが難しいこともあるかもしれませんが、問い合わせに対しては対応してください、とお願いしています。それから、万が一トラブルが生じたときには、解決に向けて協力していただくこともお願いしています。それから、これがクライアントさんにとって面倒くさいことの 1 つなんです。事前に打ち合わせをしていただく。それから、資料を提供していただくということを徹底しています。【スライド④-12】

これまでは、日本語短期プログラムの文化社会講義、あるいはフィールドトリ

ップでの通訳、それから正門を入ってすぐ左のところに、立教の歴史を伝える美しい展示館がありますが、そこのデジタルコンテンツの解説の英訳をやったり、あるいは、異文化コミュニケーション学部が主催する映画の上映会とか講演会での配布資料の和訳をしたりしました。【スライド④-13】短プロで何をしたかといいますと、今までも何回かお話がありましたけれども、教員や学芸員による講義・解説の逐次通訳。逐次通訳というのは、皆さんご存じかと思いますが、お話をした後に通訳がはいるとい形のもので。RiCoLaSに登録している学生は30人ぐらいいますが、毎回、一つのアサインメントに対して、PMが1人と通訳者2名という体制でやっています。PMというのはプロジェクトマネージャーです。プロジェクト管理も学生がやっています。フローとかを管理していますね。これまで、美術館、川越商店街、浅草などのフィールドトリップで通訳を提供しました。【スライド④-14】これは浅草ですね。【スライド④-15】

あと文化社会講義では、先生方による講義の逐次通訳。これもPMがついて、これまでカトリン先生の弓道の話とか、能楽とか、江戸の歴史などの講義を学生が通訳しました。【スライド④-16】これは能楽ですね。これ、とても難しかったと思います。だけど、学生がすごく頑張りました。学生がここに3人いますけれども、通訳しています。全員まだ2年生なんです。DLPの学生で、通訳入門のクラスを取ってやる気満々になり頑張りました。通訳入門のクラスだけでは間に合わないので、このアサインメントのためにかなりトレーニングをしました。クラスの中で、先生に評価してもらうために通訳をするのではなくて、自分の通訳を必要としている本当のお客さんがいて、コミュニケーションのお役に立っているんだということを学生たちが実感できたことがとてもよかったと思います。まだ2年生なんですけど、「先生、これからずっと通訳の授業取ります」と言ってくれたので、うれしく思いました。【スライド④-17】これは加藤先生の江戸の歴史についての講義ですが、担当したのはスウェーデンからの留学生、院生なんですけど、とても素晴らしい日英の通訳をしてくれました。【スライド④-18】

これは使用機器です。パナガイドと言われているもので、特にフィールドトリップのときに使っています。ユーザーさんは、みんなイヤホンをつけています。通訳者はマイクをつけて、小声で通訳するんですけども、ちょっと離れたところにも、イヤホンを通して通訳が聞けるという、とても便利なやり方です。【スライド④-19】



流れとしては、まず、キックオフミーティングで、誰がPMをやるのか、誰が通訳を担当するのかというようなことを話し合っ、仕事のフローを確認します。必ず倫理規定を読み上げて、ちゃんと守ろうねというようなことを毎回やります。【スライド④-20】トレーニングはかなり頑張っています。この写真には私

がいますが、学生は自主的にかかなりの練習をしています。ちょっと自慢しているみたいで恐縮ですが、このプログラムのいいところは、院生と学部生と一緒に活動していることです。院生が学部生を指導したりする機会にもなっているので、とてもよい雰囲気です。多分、この先生はこういうふうなことを言うだろうと、PMを中心に学生がスクリプトを作り、それをを用いて通訳の練習や予行演習をするんですね。非常に頑張っています。【スライド④-21】

アサインメントが終わった後には必ずフィードバック会をしています。これはクライアントさん、つまり短プロの担当者の方とエンドユーザー、つまり留学生の方から集めたフィードバックをもとに、あれがどうだった、これがどうだった、これからこうしようねというようなことを話し合っ確認しています。【スライド④-22】短プロには本当にお世話になっていて、パートナーと呼ばせていただきたいと思っています。私たちがやっていることに対する教育的理解を示していただき、クライアントさんとして、非常に密なコミュニケーションもとってくださいし、率直なフィードバックもいただいています。いいことばかりではなくて、こういうこともありました、次回は気をつけたほうがいいんじゃないですか、というふうなことも言ってくださいます。学生はもちろん、プロらしい仕事をしているつもりですが、学内の人と仕事をしているので、安心感というか、信頼感があるというのは、教育の面からとてもいいんじゃないかなと思います。【スライド④-23】

これは学生が RiCoLaS から学んだことの報告の一部です。まず、事前準備が大事だということがわかった、とのことです。学生は、川越とか浅草とかフィールドトリップの場所に前もって下見に行きます。そこで、多分ここを見るんだろ

うとかメモしてきて、スクリプトを自分たちで作って練習するんですね。それくらい頑張っています。それによって力がつくんですね。また、これが一番大事なことです。絶対何か予期しなかったことが起きます。そのときの問題対処能力、現場での問題対処能力を養うというのがとても大きいかなと思います。あと、実際の現場で、自分がどこに立ったらいいのとか、アイコンタクトをどう取ったらいいのとかということも学べたそうです。【スライド④-24】PMを経験した学生は、クライアント、ユーザーの理解を得るためのコミュニケーションの方法とか、急なスケジュールの変更でも臨機応変に対応するということを学んだと言っています。【スライド④-25】

RiCoLaS が短プロに対して貢献しているとすれば、短プロの目玉である専門的な文化社会講義の実施が、通訳者の存在によって可能になっていることだと思います。やはり上級者ばかりではないですよ、来る学生は。どちらかというと初級の方が多いので、日本の文化とか社会について、とても興味を持っているんだけど、それについて、日本語で授業を受けるレベルではないわけですよ。もちろん英語で授業をなさる先生もいらっしゃいますが、そのほかの先生にも、ご自身の専門分野について高度な話を日本語で講義していただくことを RiCoLaS の学生通訳者が可能にしていると思います。短プロ学生は、立教の留学生在が通訳している姿を見ることが結構あるんですね。さっきのスウェーデン人の留学生とか、あと、カトリン先生ときはタイ人の学生が通訳していました。この学生はとても優秀で、タイ大使館でも通訳をしているんですが、そういう人たちは、短プロ生にとって、「留学生でもこれだけできるんだ」「日本語の上級者になったらこういうことができるんだ」という、ある意味、ロールモデルになると思うんですね。刺激を受けていると想像します。短プロの学生から「僕も通訳者になりたいんです」とか、「通訳に興味があるんです」というふうに言われることがあります。

あとは、立教に学生として来ると、こういうカリキュラムがあるんだよ、RiCoLaS があるんだよ、通訳翻訳があるんだよということを理解していただく機会にもなっていると考えます。【スライド④-26】

ということで、私は、短プロと RiCoLaS は Win - Win の関係にあると思っています。短プロには通訳の機会とフィードバックを提供していただいている。私たちは、文化社会講義の支援をさせていただき、短プロ学生を刺激する機会にも

なっているんじゃないかと思っています。立教の国際化、何をもって国際化というのは、いろいろ議論があるかもしれませんが、少なくとも、留学生をふやすとか、留学生と立教生の接触をふやすということについては、貢献できているのではないかなと思います。以上です。【スライド④-27,28】

○数野 武田先生、どうもありがとうございました。

では、続きまして異文化コミュニケーション学部教授、前日本語教育センター長の池田伸子先生、よろしく願いいたします。

【スライド④-1】

立教コミュニティ翻訳通訳 (RiCoLaS) と 短期日本語教育プログラム

立教大学異文化コミュニケーション学部

武田珂代子

12/02/2017

RiCoLaS と短プロ

1

【スライド④-2】

概要

- TI@Rikkyo (立教の通訳翻訳プログラム)
- RiCoLaSの背景とガイドライン
- 短プロとのコラボレーション事例
- パートナーとしての貢献

12/02/2017

RiCoLaS と短プロ

2

【スライド④-3】

TI@Rikkyo 修了証プログラム

- 国際規格に沿った総合的なプログラム
- 異文化コミュニケーション学部
通訳者・翻訳者養成プログラム
- 大学院異文化コミュニケーション研究科
会議通訳者養成プログラム
翻訳専門職養成プログラム

12/02/2017

RiCoLaS と短プロ

3

【スライド④-4】

TI@Rikkyo 通訳翻訳研究

- 博士前期課程
- 博士後期課程（5名が博士論文執筆中）

12/02/2017

RiCoLaS と短プロ

4

【スライド④-5】

詳細は<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ti-rikkyo/index.html>をご覧ください。

The screenshot shows the RIKKYO website with a navigation bar at the top containing links for HOME, 通訳者・翻訳者養成プログラム, 大学院での通訳翻訳研究, 教員紹介, イベント, パートナー, お問い合わせ, and ENGLISH. The main banner features a photograph of a building and the text '大学院での通訳翻訳研究' (University-level Translation and Interpreting Research) with a 'LEARN MORE' button. Below the banner are four columns of content: '通訳者・翻訳者養成プログラム' (Translation and Interpreting Training Program), '大学院での通訳翻訳研究' (University-level Translation and Interpreting Research), '教員紹介' (Faculty Introduction), and 'イベント' (Events). At the bottom, there is a 'サイトマップ' (Site Map) section with links to various pages and a 'リンク' (Links) section with external links.

12/02/2017

5

【スライド④-6】

翻訳通訳教育における体験的学習

- 社会構成主義的アプローチ (Kiraly 2000)
- 「社会化」のプロセス (Sawyer 2004)
- 「サービス提供能力」(クライアントとのコミュニケーション能力、クライアントへの説明能力を含む) (e.g. EMT)

12/02/2017

RiCoLaS と短プロ

6

【スライド④-7】

サービスラーニング

- 教室で習得した知識やスキルをコミュニティの課題に取り組む活動に活用
- 教育的効果
 - (1)知識やスキルを現実社会で実践できるものに転換
 - (2)キャリア形成の計画を支援
 - (3)コミュニティへの貢献を通して自らの社会的役割や市民としての責任を認識

12/02/2017

RiCoLaS と短プロ

7

【スライド④-8】

サービスラーニング

- 単なる奉仕活動ではなく教育活動

必須要素

- 振り返り
- 評価
- 互惠性

12/02/2017

RiCoLaS と短プロ

8

【スライド④-9】

翻訳通訳教育におけるSLの課題

- 「翻訳通訳は専門職」「専門教育の必要性」
- 「ボランティア問題」を助長させない



ガイドラインの必要性

- カリキュラムとの関連性
- 適切な業務の見極め
- 監督・管理体制
- 振り返りと評価



クライアント/ユーザーの理解と協力が重要

【スライド④-10】

立教大学でのSL

- 「立教大学コミュニティー翻訳通訳」
(RiCoLaS; Rikkyo Community Language Service)
- 2016年4月スタート
- ~2017年度 大学による援助 (GP)
- 2018年度~ 異文化コミュニケーション
学部で運営

【スライド④-11】

RiCoLaSガイドラインの概要

- 目的
- 業務受け入れ基準
- 「クライアントの皆様へ」
→ 「サービスラーニング」への理解を求める
- 「学生の皆様へ」
→ 「倫理規定」の順守
- プロジェクトフロー
- 振り返り

12/02/2017

RiCoLaSと短プロ

11

【スライド④-12】

クライアント/ユーザーへのお願い

- 「教育」に対する理解
- フィードバック
- 問い合わせへの対応
- トラブル解決のための協力
- 事前打ち合わせや資料提供への協力

12/02/2017

RiCoLaSと短プロ

12

【スライド④-13】

これまでの取り組み

- 日本語短期プログラムの文化社会講義とフィールドトリップでの通訳
- 立教学院展示館内のデジタルコンテンツ解説の英訳
- 映画上映・講演会での配布資料の和訳
- 日本通訳翻訳学会関東支部例会での通訳
- 高校生向け広報イベントの実施

12/02/2017

RiCoLaS と短プロ

13

【スライド④-14】

日本語短期プログラムとの連携

- (1) 留学生フィールドトリップでの通訳
 - 教員や学芸員による解説の逐次通訳
 - 参加学生 各回 PM:1名、通訳者:2名
 - 実施場所
竹久夢二美術館、川越商店街、浅草、
青山学院女子短大、合羽橋、江戸東
京博物館など

12/02/2017

RiCoLaS と短プロ

14

【スライド④-15】

浅草



12/02/2017

RiCoLaS と短プロ

15

【スライド④-16】

日本語短期プログラムとの連携

(2) 文化社会講義での通訳

- 教員などによる講義の逐次通訳
- 参加学生 PM:1名、通訳者：1-2名
- トピック：日本の伝統スポーツ、能楽、江戸の歴史など

12/02/2017

RiCoLaS と短プロ

16

【スライド④-17】

「能楽」プログラム



12/02/2017

RiCoLaS と短プロ

17

【スライド④-18】

「江戸」の歴史



12/02/2017

RiCoLaS と短プロ

18

【スライド④-19】

使用機器



12/02/2017

RiCoLaS と短プロ

19

【スライド④-20】

キックオフミーティング



12/02/2017

RiCoLaS と短プロ

20

【スライド④-21】

トレーニング



12/02/2017

RiCoLaS と短プロ

21

【スライド④-22】

フィードバック会



12/02/2017

RiCoLaS と短プロ

22

【スライド④-23】

パートナーとしての短プロ

- 「教育」への理解
- 「クライアント」として密なコミュニケーション
- 率直なフィードバック
- 学生の安心感、信頼

12/02/2017

RiCoLaSと短プロ

23

【スライド④-24】

学生：RiCoLaSから学んだこと

- 通訳者として
 - 予習や下見、事前準備の大切さ
 - 臨機応変に対応する力
 - 現場でなければわからないこと（立ち位置、アイコンタクトなど）

12/02/2017

RiCoLaSと短プロ

24

【スライド④-25】

学生：RiCoLaSから学んだこと

- プロジェクトマネージャーとして
 - 依頼者・利用者に通訳について理解していただくこと
 - 依頼者・利用者との効果的なコミュニケーション
 - 様々なことを予測して事前準備をきちんとすること
 - 急なスケジュールの変更、話の内容の変更にも臨機応変に対応し、常に通訳者が十分に力を発揮できるような環境を整えること

12/02/2017

RiCoLaS と短プロ

25

【スライド④-26】

RiCoLaSの貢献

- 通訳サービスによって専門的な文化社会講義の実施が可能になる
- 短プロ学生と立教生との接触
- 留学生が通訳→短プロ学生を刺激
 - 日本語上級者としての模範
 - 立教のカリキュラムや活動の理解

12/02/2017

RiCoLaS と短プロ

26

【スライド④-27】

まとめ

- 短プロとRiCoLaSは「Win-Win」の関係
- 短プロ：機会とフィードバックの提供
- RiCoLaS：文化社会講義の支援、短プロ学生を刺激



「国際化」への貢献

12/02/2017

RiCoLaSと短プロ

27

【スライド④-28】

詳細は<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ricolas/index.html>をご覧ください。

立教コミュニティ翻訳通訳

- RiCoLaS (Rikkyo Community Language Service) -

本プログラムは立教大学教育活動推進部(2016年)の支援を受け、立教大学英文コミュニケーション学部で運営されています。
70年Rikkyo (立教)の国際化プログラムに生まれ、70年Rikkyoのページを今後継承いたします。

RiCoLaS
RiCoLaSについての概要です。

活動紹介
RiCoLaSの活動を紹介します。

お問合せ
お問い合わせ、アクセス。

12/02/2017

28